



今月の主な目次

- 社長新年挨拶
- 北海道向けサイレージ用トウモロコシ
今春の品種選定について

- シリーズ草地更新を考える最終回 = 播種後はギンギン対策を徹底する =
- 北海道統括支店 道央地域より新年のご挨拶
- 北海道統括支店 道東地域より新年のご挨拶

謹 賀 新 年

平成24年の新春を迎え、皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、東日本大震災や集中豪雨などにより各地で甚大な被害を受け、今なお、福島第一原発事故の影響も含めて多くの方々のご苦勞をされており、あらためて被害に遭われました生産者・関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、今後の復興へ向けたご苦勞ご尽力に深く敬意を表します。

さて、経済・社会のグローバル化が進んでいく中、わが国の農業を取巻く環境は、生産物価格の低迷や後継者育成の遅れなどから国内生産力・供給力の脆弱化が指摘される一方で、新興国の経済成長と世界的な気候変動を背景とした中期的な穀物需給の逼迫や生産コストの上昇が避けられない状況にあり、地球温暖化や生物多様性も含めた環境保全への動きなども併せ、一層厳しさを増してきています。さらに、関係国との協議が開始されることとなった環太平洋連携協定(TPP)への対応によっては、稲作や酪農・畜産分野を中心に大きな影響が出ることが想定され、わが国の農業はかつてない厳しい状況に直面しています。

このような中であっては、あらためて農業が持つ多面的な機能、すなわち農産物の生産機能と環境保全に係る機能をしっかりと発揮し、食料の安定的な供給と地球温暖化防止や生物多様性の保全などの環境問題に

積極的に貢献していくことが重要であり、先に策定された新食料・農業・農村基本計画に掲げられている、意欲ある多様な経営体の育成や優良農地の確保などによる生産基盤の確保、また、活力ある農村の再生を通じた農業の多面的機能の発揮などの諸課題に取組んでいくことが急務であると考えております。

弊社は創業者である黒澤西藏翁が提唱した「健土健民」を企業理念に、牧草・飼料作物種子や乳牛用・肉牛用の配合飼料製品、サイレージ用添加剤などの酪農・畜産分野を中心に、緑肥作物や野菜種子また、芝草種子・緑化技術などの環境緑化分野まで幅広い分野で事業を展開しておりますが、今こそ長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、牧草・飼料作物など自給飼料を活用した生産基盤強化への貢献とともに、緑肥作物を活かした環境保全型農業の推進や自然・生態系に配慮した緑化用草種・技術の開発などを通して、日本の農業、酪農・畜産の発展、持続型社会の構築へ向けた役割を果たしていきたいと考えております。

本年も農業、酪農・畜産の生産現場から幅広い生活分野に至り、数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ち致しております。

新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成24年 元日

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 掛村 博之